

Ⅱ 平成 29 年度広島かき生産出荷状況

1 生産量

区 分	平成 29 年度		平成 28 年度	平 年	
	対前年度 (比率)	対平年 (比率)			
総生産量(トン)	19,500	+700 (104%)	+90 (100%)	18,800	19,410
生鮮向け(トン)	7,700	+600 (108%)	-580 (93%)	7,100	8,280
加工向け(トン)	11,800	+100 (101%)	+670 (106%)	11,700	11,130

(注) 平年：H19～28年平均値

水産課調べ

(1) 生産量

- ア 総生産量は 19,500 トンで、前年を4ポイント上回った。
- イ 生鮮向けは 7,700 トンで、前年を8ポイント上回り、平年を7ポイント下回った。
- ウ 加工向けは 11,800 トンで、前年を1ポイント、平年を6ポイント上回った。

(2) 生産状況

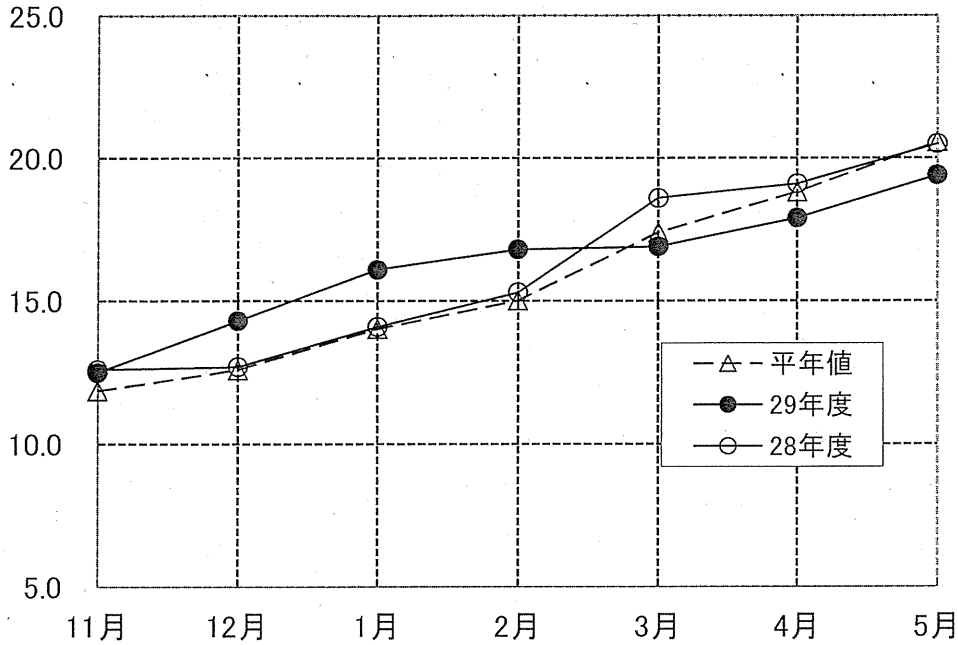
- ア 採苗は、かきの餌の多い広島湾北部海域への母貝筏の設置や、採苗情報の共有化を図ったが、一部海域を除いて不調に終わったことから、種苗の確保量は必要量の5割程度に留まった。
- イ 平成 27 年及び 28 年と順調に種苗が確保され、生産量の回復が見込まれたことから、広島かき生産対策協議会において、出荷開始日を前年並みの10月2日に決定した。
- ウ 身入りは、漁期前半から年明けまで良く、前年及び平年を上回って推移したことから、今期の平均むき身重量は、16.3g となり、平年を8ポイント上回った。(第2図)

(3) 出荷状況

- ア 調査を行った全国の市場へのかき出荷量は、10,994 トンで、前年を4ポイント上回った。このうち本県出荷量は、4,354 トンで、前年を6ポイント上回った。本県出荷量が全国に占める割合は 40% で前年を1ポイント上回った。
- イ 生鮮向け主体の年内の出荷は、生鮮かきの販売不振から出荷調整が行われるなど、平年を下回った。一方加工向け主体の漁期中盤から後半の出荷は、冷凍かきの引き合いが強く、順調に出荷が行われたことから、平年を上回った。(第3図)

県内の年間平均むき身重量は 16.3g となり、前年 (15.9g) 及び、平年 (15.1g) を上回った。

(g / 個)

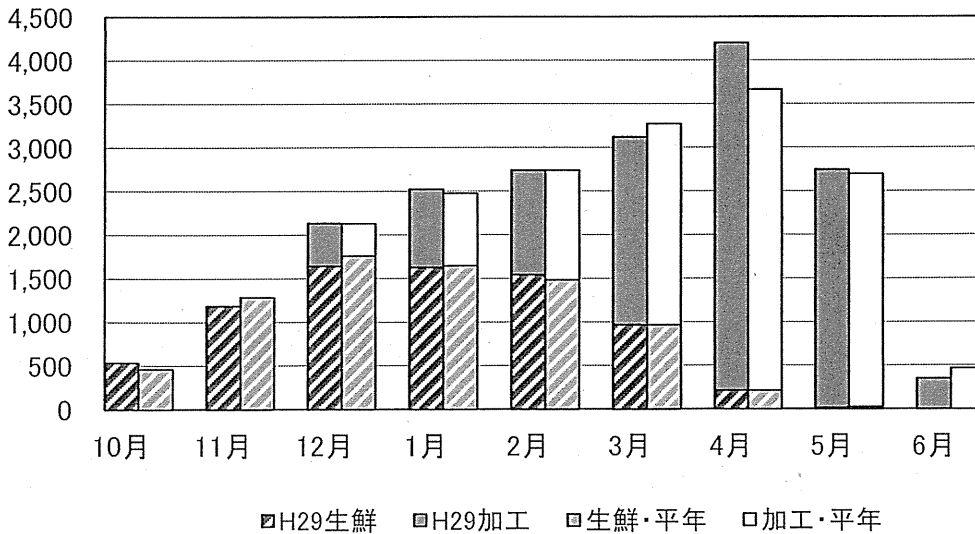


第2図 月別出荷個体重(県平均)

(水産課調べ)

(注) 平年値は平成19年から平成28年の平均

(トン)



第3図 用途別月別出荷量

(水産課調べ)

(注) 平年値は平成24年から平成28年の平均

2 生産額

区 分	平成 29 年度		平成 28 年度	平 年
		対前年度 (比率)		
生産額(億円)	176	±0 (100%)	176	164
平均単価(円/kg)	898	-33 (96%)	931	850
生鮮向け(円/kg)	1,192	-79 (94%)	1,271	1,149
加工向け(円/kg)	707	-18 (98%)	725	627

(注) 平年: H19~28年平均値

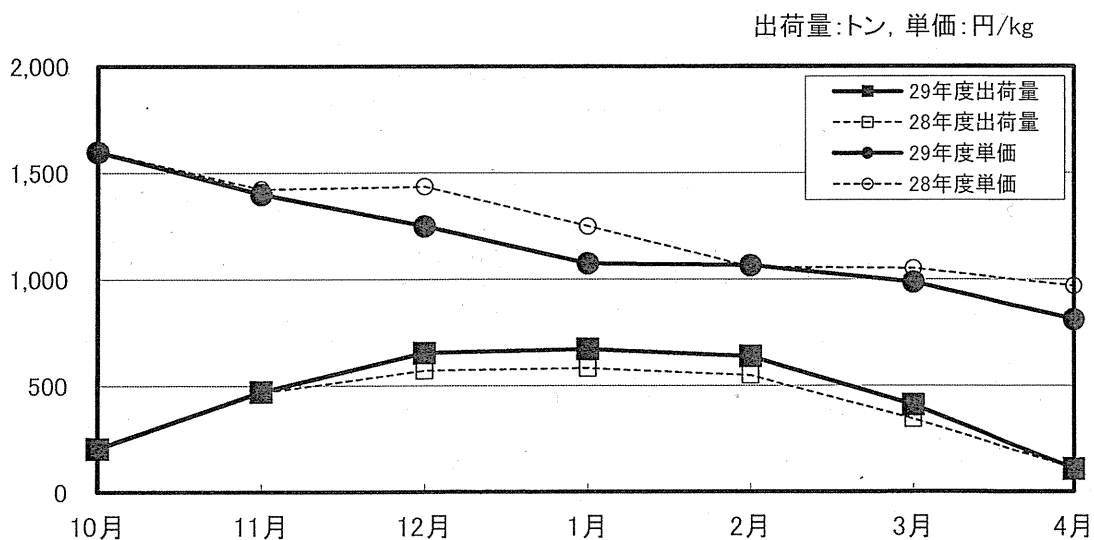
水産課調べ

(1) 生産額

- ア 生産額は176億円で、前年と同額であり、平年を7ポイント上回った。
- イ 生鮮向け生産額は92億円で、前年を1ポイント上回り、平年を2ポイント下回った。
- ウ 加工向け生産額は84億円で、前年を1ポイント下回り、平年を20ポイント上回った。

(2) 単価

- ア 平均単価は898円/kgで、前年を4ポイント下回り、平年を6ポイント上回った。
- イ 生鮮向け単価は1,192円/kgで、前年を6ポイント下回り、平年を4ポイント上回った。
- ウ 加工向け単価は707円/kgで、前年を2ポイント下回り、平年を13ポイント上回った。



第4図 主要市場への出荷実績